

《履修上の留意事項》講義では哲学だけでなく、生物学に関する知識も必要とする。
 文章作成能力の向上を図るため、レポートは5回提出する必要がある。
 講義でのディスカッションや出席管理はGoogle Classroomを通じておこなうため、PCを必ず持参すること。
 ZoomのURLはGoogle Classroom上に毎回提示する（教室の据置PCのZoomは使用しない）。

《担当者名》准教授 / 森元 良太（心理科学部・リハビリテーション科学部）

【概要】

この講義では、現代哲学の一分野である科学哲学を学ぶ。科学哲学は自然科学の成果を踏まえて哲学の諸問題に取り組み、また自然科学の基礎や方法論などを分析する学問分野である。まず、哲学の歴史を学び、哲学とはどのような学問かを理解する。次に、科学のなかでも医療に関連する生物学をとりあげ、生物学に関連する哲学的問題について検討する。

【学修目標】

私たちの常識や思考の枠組みは時代とともに大きく変わってきた。この講義では、現代に生きる私たちの思考の枠組みを理解するため、古代から現代までの哲学の流れを学ぶ。

科学は現代の知識の代表とされ、医療の場面でも不可欠である。科学のなかでも医療に関連する生物学に関する哲学的問題を検討することで、現代の思考の枠組みを理解する。

生物学に関連する哲学的問題を具体例として考察することにより、科学的な知見に対して批判的に検討する必要性を理解し、批判的思考法も習得する。

発表や討論などの参加型の学習を通じてディスカッション能力を養い、かつレポートを通じて論理的思考力を高める。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	哲学小史	哲学史を学び、古代ギリシアから現代までの哲学の枠組み、およびその変化を理解し、現代に生きる私たちの思考の枠組みを説明できる。 薬学準備教育ガイドラインの到達目標 (1)人と文化 1、7	森元 良太
2	哲学小史	近代から現代に至る転回について学び、科学哲学の基本事項を概説できる。 薬学準備教育ガイドラインの到達目標 (1)人と文化 1、7	森元 良太
3	ダーウィン進化論	チャールズ・ダーウィンによる生命の樹仮説と自然選択説を説明できる。 薬学準備教育ガイドラインの到達目標 (1)人と文化 1、7	森元 良太
4	ダーウィンの独創性	ダーウィンの考えの独創性を概説でき、また仮説と証拠の関係を説明できる。 薬学準備教育ガイドラインの到達目標 (1)人と文化 1、7	森元 良太
5	進化論に基づく思考の枠組み	進化論に基づく思考の枠組みを理解し、正常と異常の区別についての変遷を説明できる。 薬学準備教育ガイドラインの到達目標 (1)人と文化 1、7	森元 良太
6	進化論的世界観	物理学的な世界観と比較しながら進化論の描く世界観を説明できる。 薬学準備教育ガイドラインの到達目標 (1)人と文化 1、7	森元 良太

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
7	利他性とは何か	自分を犠牲にして他人を救う利他性の考えとその謎を説明できる。 薬学準備教育ガイドラインの到達目標 (1)人と文化 1、7	森元 良太
8	遺伝子の視点からみた利他性	利他性の存在を説明する血縁選択説を学び、遺伝子の視点から進化を考える枠組みを概説できる。 薬学準備教育ガイドラインの到達目標 (1)人と文化 1、7	森元 良太
9	群れの視点からみた利他性	利他性の存在を説明する群選択の考え方とその問題点を説明できる。 薬学準備教育ガイドラインの到達目標 (1)人と文化 1、7	森元 良太
10	利他性の謎をめぐる論争	利他性の謎をめぐる論争の対立点を列挙し、論争の背後にある枠組みを説明できる。 薬学準備教育ガイドラインの到達目標 (1)人と文化 1、7	森元 良太
11	発生と進化の関係	発生学と形態学の歴史を学び、進化と発生の関係の変遷を説明できる。 薬学準備教育ガイドラインの到達目標 (1)人と文化 1、7	森元 良太
12	進化発生学がもたらした概念や理論の変化	発生学と進化生物学の統合による概念や理論の変化を理解し、新しい生命観を概説できる。 薬学準備教育ガイドラインの到達目標 (1)人と文化 1、7	森元 良太
13	種とは何か	生物の分類方法を理解し、種タクソンの存在論的身分を概説できる。 薬学準備教育ガイドラインの到達目標 (1)人と文化 1、7	森元 良太
14	種に本質はあるのか	種というカテゴリーに本質があるかどうかを検討し、種についての新しい考え方を概説できる。 薬学準備教育ガイドラインの到達目標 (1)人と文化 1、7	森元 良太
15	微生物学による新しい生命観	微生物学の発展にともなう新しい生命観を概説できる。 薬学準備教育ガイドラインの到達目標 (1)人と文化 1、7	森元 良太

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

4回の課題レポート（各10%）、および期末レポート（60%）で評価する。レポートはルーブリック評価表を用いて厳格に評価する。

【教科書】

森元良太・田中泉史 著 「生物学の哲学入門」 勁草書房 2016年

【参考書】

エリオット・ソーバー 著 「進化論の射程」 春秋社 2009年
アレックス・ローゼンバーグ (2011) 『科学哲学』 春秋社

【備考】

1. 講義資料の配信、学修課題の提示
 - ・講義資料はGoogle Classroomを利用して配布する。
 - ・学習課題はGoogle Classroomを利用して提示する。
2. 講義に関する学生間、および教員とのディスカッションの実践
 - ・Google Classroomを利用して、学生相互の意見交換、および学生と教員間のディスカッションをおこなう。
3. 授業時間中にその場で学生の理解度を把握する技術の活用
 - ・Google Formを利用し、毎回小テストを実施し、学生の理解度を把握する。

【学修の準備】

授業では知識を提供することが多くなるが、哲学は自分自身で考えることが重要な学問である。哲学者の議論を自分で再構成することは、批判的思考法を習得するにも効果的である。そのため、授業までに次回扱う教科書の範囲を予習すること(80分)。また、授業後にも授業内容について教科書と配布プリントを用いてしっかり復習をすること(80分)。授業中に意見を求め、ディスカッションすることがある。

【薬学準備教育ガイドライン】

(1)人と文化 1,7

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。